

五 1 情報の取り出し・情報を関係付けた記述 通過率 29.9%

問題の趣旨

目的や必要に応じて情報を取り出し、それらを関係付けて書くことができるかどうかをみる。

学習指導要領における領域・内容

第3学年及び第4学年 B 書くこと ウ
書こうとするものの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。
第3学年及び第4学年 C 読むこと イ
目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。

(正答の条件)
次の三つの条件を全て満たしていること。
①「オランウータンのくらしていた『すみか』に合わせたし育のくふうをしている」という内容を書いていること。
②「オランウータンは、東南アジアのジャングルの木の上で暮らし、木やツルを使っていろいろしている」という内容を書いていること。
③「ツルの代わりにするじょうぶなロープや消ぼうしホースをつるしている」という内容を書いていること。
(正答例)
(オランウータンの場合は) オランウータンのくらしていた「すみか」に合わせたし育のくふうをしています。
オランウータンは、東南アジアのジャングルの木の上で暮らし、木やツルを使っていろいろします。
そのため、ツルの代わりにするじょうぶなロープや消ぼうしホースをつるすくふうをしています。

【注意】
○「科学読み物」を使って書くこと。
○ 赤田さんの文章の書き方を参考にし、書き出しの文もふくめて三段落で書くこと。

し育のくふうを調べたよ!

アルダブラゾウガメの場合
アルダブラゾウガメの場合は、アルダブラゾウガメのくらしていた場所の「気候」に合わせたし育のくふうをしています。
アルダブラゾウガメは、アフリカ大陸近くにある島の海岸でいであらし、寒さが苦手です。
そのため、体を温められるライトをつけるくふうをしています。

オランウータンの場合
ア

(赤田) (山本)

1 赤田さんと山本さんは、「科学読み物」をもとにして、アルダブラゾウガメとオランウータンのし育のくふうをしようかという文章を書きました。次は、「し育のくふうをしようかという文章」です。
【注意】に合わせたし育のくふうの内容を、次の【注意】に合わせて書きましよう。
【し育のくふうをしようかという文章】

解答類型と傾向

解答類型		割合 (%)
○	条件①②③を全て満たしていること。	29.9
×	条件②③を満たしているが、条件①を満たしていない。	23.6
×	条件②を満たしているが、条件①③を満たしていない。	6.8
×	条件③を満たしているが、条件①②を満たしていない。	4.1
×	条件①②を満たしているが、条件③を満たしていない。	3.5
×	条件①を満たしているが、条件②③を満たしていない。	2.2
×	条件①③を満たしているが、条件②を満たしていない。	1.5
×	上記以外の解答	17.6
—	無解答	10.9

分析と課題

誤答を見ると、条件②、③は満たしているが、条件①を満たしていないものが23.6%あった。条件②、③に関する情報が、「オランウータン」という小見出しが付けられたコーナーに書かれており、情報を取り出しやすかったのに対して、条件①の情報は、「し育係の方に聞いてみよう」という情報量の多いインタビュー記事の中で述べられており、情報を取り出すことが難しかったことが原因にあると考えられる。

このことから、情報量の多い資料から目的となる情報を的確に取り出す力、文章を再構成した際の文と文をつなぐ力に課題があると考えられる。

質問紙調査との関連

(12) 国語の授業では、目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしています。

	よく	やや	あまり	全く
設問五 1 回答状況別の通過率 (%)	34.6	31.3	24.7	16.2

国語の授業では、目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていると回答している児童ほど、情報の取り出し・情報を関係付けた記述の設問の通過率が高くなる傾向がある。

指導のポイント

目的に応じて複数の資料から情報を取り出し、それらを関係付けて再構成して文章を書く言語活動を設定しましょう。

授業例

第一次

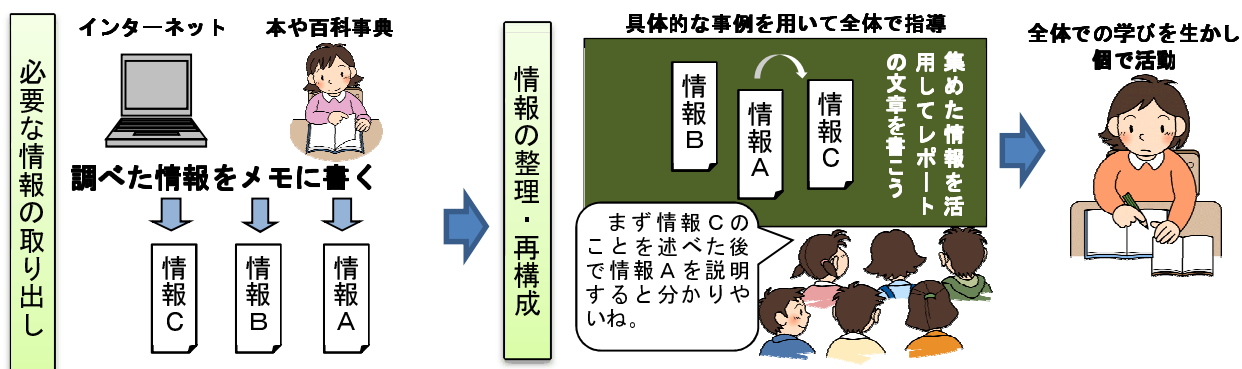
- 自分の興味のあることや、日頃不思議に思っていることから生まれた問いをもとにレポートを作成し、それらを集めて「5年1組百科事典」を作って全校に紹介するという計画を立てる。



単元の導入は、設定した言語活動をやってみたいと児童に思わせるように工夫しましょう。また、教師が作成したモデルを提示し、具体的なゴールイメージを持たせることも有効です。児童は、ゴールへの見通しを持つことでより主体的に学習を進めることができるようになります。

第二次

- 本や百科事典、インターネットから情報を収集し整理する。それらを活用して再構成し、レポートを書く。



情報の信頼性を高めるためにも複数の資料を活用させましょう。また出典をメモさせるなど引用に関することも指導しましょう。



いきなり個々に活動させるのではなく、全体の場で文章構成や文と文とのつなぎ方等について考えさせ、基本的な事項をきちんと指導することが大切です。

第三次

- 互いの書いたレポートを交流するとともに、百科事典としてまとめ、図書館に展示する。



国語科で学んだ情報の取り出し、整理、再構成の仕方を他教科や総合的な学習の時間でも活用させることが重要です。